

お鍬山 植物たより (H26. 9. 17)



イタドリ

「暑さ寒さも彼岸まで」です。秋分の日も近づいてきて、夏の暑さも和らぎ、凌ぎやすくやってきました。イタドリの花が咲いています。春の芽吹きは山菜とされています。(70代~80代の方にはすっぱいといって皮をむいて生のままで食べた記憶があるのではないのでしょうか) お鍬山では、いまは茎の高さが 150cmにもなり枝の先の花穂に多数の白色

の小花を密につけているのを南側の上流堰堤や遊歩道などに見る事ができます。

凌ぎやすくなったとはいえ、遊歩道沿いには多くの野草が繁茂し歩きにくくはなっています。特に、ひつつき虫(果実の表面に刺や粘液を持ち、動物や衣服にひっついて種が運ばれる植物)と称される、お鍬山ではいまはチヂミザサ、ササクサ、イノコヅチなどが各所に見られます。衣服にひっつくのととのに大変ですが、それも植物の子孫繁栄の方法と思い納得しましょう。

南側、上流堰堤にはミズヒキやキンミズヒキが咲いています。ミズヒキの茎は直立してまばらに枝分かれし、細い花穂にまばらに小さな赤い花をつけます。上から見ると赤く、下から見ると白く見えることから紅白の水引にたとえ、この和名となったようです。また、キンミズヒキは小枝の先に多数の黄色の小さな花をミズヒキと同じ様に細い花穂につけます。細長い花穂(水引)で黄色の花ということで金水引の和名になったとか。これらの花は花壇などでもよく見ます



ミズヒキ



キンミズヒキ



チヂミザサ



ササクサ



イノコヅチ

が、多くの野草のなかに見ると、また違った趣があります。遊歩道の各所にあるヤマガキやクリの実も大きくなりました。秋が楽しみです。